



●「スリランカ」と聞いて、みなさんは、なにを思い浮かべるでしょうか。カレーや紅茶でしょうか。そんなスリランカ・カレーを食べていただきたくて、私はこれまで、

清瀬のいろいろなイベントでふるまったり、「コミュニティプラザひまわり」では、講師として料理教室を開いたりしてきました。また、香り豊かなオーガニックのセイロンティーの入れ方や料理方法を伝授したり、その茶葉を販売したりもしています。飲んだかたからは、「ハマってしまいうくらい美味しい!」と褒めていただいています。そして、このような活動は、私が現在おこなっている“スリランカの小規模小学校の支援”にも役立っています。



●スリランカの小学校は、2009年まで30年あまりもつづいた内戦や、世界経済のあおり、さらには津波の被害もあって、とくに地方の農村部では教育環境が悪化し、廃校の危機にあるところも多いのです。私は1990年に、義兄の縁で来日し、その後、日本人と結婚し、特別支援学校の臨時教員をしながら、田無に住みつけてきましたが、スリランカで教師をしていたときのことが、いつも心の中に引っかかっています。母国の教育のためになにかできないかと考え、2012年に思い切って立ち上げたのが、NPO法人「ラマーミトゥルの会」です。

●スリランカの言葉、シンハラ語で“子どもたちの友情”を意味するこの会では、みなさんのご厚意により集められた寄付金を、校舎や設備の修繕、学習に必要な備品や道具や遊具の購入につかい、子どもたちの笑顔につなげてきました。しかし、他方で、校舎の改築や新築といった大きな工事、また教師の確保にまでは行きわたらず、もどかしい気持ちも正直、あります。ただ、着実に歩みをすすめてきた自信もたしかにあり、例えば、支援して



いただく学校の実情をご自身の目で、寄付金を送るまえに確認していただきたい、との思いから、「スリランカを知るツアー」を開催してきました。後日おこなわれる、参加者によるその報告会には、毎回、ご好評をいただいています。

●そのような支援をひとつの柱にしながら、日本の学校に出向いて交流授業や音楽祭に参加したり、公民館や公共施設で料理会や染物体験を実施したり、こども食堂へ食事を提供したり、近隣の地域を中心にはばひろく展開してきました。在日スリランカ人と日本人の友好や、スリランカと日本の文化交流にも重きをおきつつ、“アジアの子どもたちの将来がより深い友情で結ばれること”をめざして、日々、活動しています。



●そもそも、スリランカと日本のかかわりは、決して浅いものではありません。1951年のサンフランシスコ講和会議で、「憎しみは、憎しみによって止むことなく、愛によってこそ止む」というブッダのことばを引きながら、故ジャワルダナ元大統領が、日本に対する賠償請求を放棄し、ほかの参加国にも寛容な態度をうながした出来事も有名です。親日家の元大統領にかぎらず、スリランカへの経済援助の大半を占める日本に対して、国民のおおくは感謝と友情の念をいただいています。



●そうした背景もあって、最近では、日本からの観光客も増えてきて、ますます身近になりつつあったスリランカではありますが、コロナ禍の影響で、さきほどのツアーをはじめ、直接的な交流がなかなか実現できない状況であるのも事実です。それでも、みなさんの近くに、スリランカはしっかり息づいています。

NPO法人「ラマーミトゥルの会」理事長
「ラサテ」（無農薬スリランカ紅茶）代表

●山崎シルヴァ

〒188-0014 西東京市芝久保町 3-26-13
Tel/Fax 042-466-8330
E-mail lamamithuru@gmail.com
HP <http://lamamithuru.web.fc2.com>



みなさんにとって

身近な Sri Lanka